

平成28年度 子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業 読書のタベ
--

1. 事業の目的（趣旨・ねらい）

子どもの読書活動を推進することで読書の楽しさを感じ、読書しようとする態度を育む。また、体験活動や読書活動への理解を深め、子どもゆめ基金の普及啓発を行う。

2. 事業の概要

（1）期日

平成29年2月11日（土）～12日（日）1泊2日

（2）参加者

① 募集対象・人数

幼児から小学校中学年までの子どもとその家族（子どもだけの参加は不可）
10家族（40人程度）

② 参加人数

12家族（41人）

（3）講師等

国立吉備青少年自然の家職員（朗読劇）

（4）企画・運営のポイント

- ① 読書活動に親しみを持つことができるように、体験ができるプログラムを企画した。
- ② 多くの参加者を募るために、報道機関へ広報を依頼した。また、岡山市を中心に、近隣の市町の保育園、幼稚園や小学校、図書館や公民館等にもチラシを配布した。

3. 活動の内容等

（1）日程

2月11日（土）		2月12日（日）	
16:00	受付	6:45	起床・洗面
16:30	オリエンテーション	7:20	清掃
17:15	夕べのつどい	7:45	朝のつどい
17:30	夕食	8:00	朝食
18:30	朗読劇・親子読書	9:00	片付け・退所
20:30	入浴	9:30	ブックワールド参加
22:00	就寝		

(2) 活動の状況



【朗読劇】



【朗読劇】



【朗読劇】



【親子読書】



【親子読書】



【親子読書】

4. 成果・課題

(1) 満足度

満足：64% やや満足：27% やや不満：9%

(2) 参加者の声

- ① 今回と同様に実際に体験できて、みんなで1つのものを完成させ、仕上げるような活動をしてみたい。
- ② 本好きな子どもたちにとって、お泊りも兼ねた今回の企画はとても満足。職員、ボランティアの方がよく声をかけて下さり、親しみやすかった。
- ③ 少し物足りなさを感じた部分があった（もっと本にふれる時間があつたらよかった）。親子の朗読劇がよかった。規律を学べてよかった。

(3) 成果

- ① 吉備中央町の図書館に協力をお願いし、読書コーナーの充実を図った。
- ② 参加者を募るために、報道機関へ広報を依頼したり岡山市を中心に近隣の市町の保育園、幼稚園や小学校、図書館や公民館等にもチラシを配布したりすることで定員を超える参加者を得て、読書の楽しさを感じてもらうことができた。

(4) 今後の課題

- ① 体験型の読書活動を行うときには、対象の年齢を考慮して行うことが大切である。
- ② 読書コーナーの本は、様々なニーズに対応できるように、豊富な種類や新刊などをできるだけそろえる必要がある。

担当：企画指導専門職 瀧田 正宏